

高精細映像処理装置の概要と活用事例

情報技術試験場

2006年に予定されている地方での地上デジタル放送開始に向けた大きな変革が、既に放送業、映像制作業だけでなく製造業や情報サービス業でも進んでいます。情報技術試験場では、高精細映像に関連した技術開発や製品開発を支援するため、平成14年度に高精細映像に対応した機器を導入し、企業の皆さんに活用していただいています。これらの設備の概要と、研究会での活用事例を紹介します。

■高精細映像処理装置の概要

高精細映像処理装置は、映像の撮影から再生・録画、編集、フォーマット変換、Web配信実験、波形計測などの一連の機能を分担する次の機器で構成されています。

- (1) 高精細デジタルビデオカメラ
SONY HDW-750 (HDCAM、1080/59.94i)
- (2) 高精細デジタルビデオレコーダ
SONY HDW-M2000 (HDCAM、1080/59.94i)
- (3) 高精細映像編集装置
Cinewave RT ProDigital HD Option、PowerMac G4/1GHz Dual、Finalcut Pro4
- (4) 映像圧縮変換装置
Media Press Pro、Power Mac G4、Sorenson Squeeze、LiveStage Professional 3
- (5) ストリーミングビデオ配信装置
Apple iBook、Sorenson Broadcaster、Xserve+ QuickTime Streaming Server
- (6) 高精細映像波形モニタ
LEADER LV5700 (HD-SDI、SDI)

■活用事例



図1 高精細デジタルビデオカメラ (左上)、高精細映像編集装置 (右上)、高精細波形モニタ (左下)、高精細デジタルビデオレコーダ (右下)

平成15年度に、長野県デザイン振興協会CG研究部会のメンバーが中心となり、(財)長野県テクノ財団アルプスハイランド地域センターとの共催によるHD*映像コンテンツ研究会が開催されました。参加メンバーは、映像制作業、情報サービス業、印刷業、デザイン業、製造業など様々な分野に渡り、HD映像の可能性に高い関心が寄せられていることがうかがえました。

この研究会では1年間をかけて、HD映像の撮影実験、ノンリニア編集実験、デジタル放送実験、DVHSへのメディア変換実験、印刷実験、Webへの活用実験、CG合成実験、DVD制作実験など、参加者がHD映像を実務に応用するための実証的な研究に取り組み多くの成果を残すことができました。

また、1年間の活動の集大成として、今年3月12日にHD映像コンテンツ研究シンポジウムをホテルブエナビスタで一般の方も参加する形で開催し、研究成果の口頭発表や展示、実演を行いました。シンポジウムの概要は、長野県デザイン振興協会のホームページの中で紹介されていますので、そちらをご覧ください。

(<http://www.ndpa.jp> 「過去の事業」)

■おわりに

高精細映像処理装置の各機器は、機器貸付の制度により利用することができます。詳しくは下記までお問い合わせください。

情報技術試験場 デザイン部 桃井貞美
TEL 0263-25-0981 FAX 0263-26-5350
E-mail momoi@nagano-it.go.jp

*HD : High Definition (高精細度) の略